



## メモリアル・キルト

メモリアルキルトは、AIDS（エイズ）を発症して生命を失った人々の名前や思い出、その人の生きた証をキルト（布）に記録したものです。キルトは亡くなった方の愛用した遺品や衣服をつかい、家族や友人、恋人らによって一針一針心を込めて縫い上げられ、そこには故人へのメッセージが添えられています。

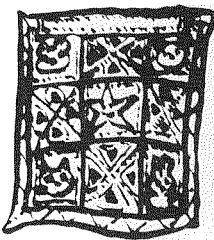
また、このキルトにはHIV感染者や患者たちが厳しい差別や偏見を越えて立ち上がり、生命の尊厳を伝えようという願いも込められています。



## メッセージキルトとレッドリボン

メッセージキルトは、感染者や患者の方々を力づけ支援するために作られるものです。グラビアのキルトは、小学生から大人まで1200名の人たちの意見や支援の言葉でつながれています。感染者や患者は、このキルトによって勇気もらいます。また、このことは差別や偏見をなくすための運動を広げることにもつながります。

レッドリボン運動は、誰でも参加できる運動です。ヨーロッパでは、病気や事故で人生を全うできなかった人々を追悼するために、赤いリボンを付ける風習がありました。かつてニューヨークでAIDSが広がり、多くの若者が亡くなっていきました。その死を悼み、ヨーロッパの風習に倣って胸に赤いリボンを付けたのが始まりです。今では世界中に広がり、HIV・AIDSへの正しい理解と支援・共生を求めるシンボルとなっています。グラビアのメッセージキルトは、個人個人が作ったレッドリボンを使って大きなリボンを作り上げました。



## ABCキルト (At Risk Baby Crib キルト)

ABCキルトは、母子感染によって生まれてきた赤ちゃんに愛と温もりを届け、優しく包み育てていこうという思いによって縫い上げられた“おくるみ”です。

このキルトは、HIVに感染して見捨てられた赤ちゃんや、両親がAIDSで亡くなった赤ちゃんたちを救っていこうという一人の母親の願いから作られ始めたものですが、赤ちゃんを育てている施設や家庭に、この“おくるみ”を届けるとともに、ミルクや養育費等の支援も行われています。

### キルトを縫うということ

このようにキルトを制作する活動には、作品を作り上げる目的とは別に、制作の過程にも重要な価値があります。制作しながら、亡くなった人への思い出を語ったり、社会への怒りを吐き出したり、談笑したりと残された者の癒しと勇気をもつ貴重な時間にもなります。糸と針を使って人の心と心をつなげていくような作業なのです。



(※P8グラビア写真参照) 文責：木島知草